

『ロンドンデリーの歌』に寄せて

平成23年12月24日 渡邊正明

江川 猛

男声合唱団阪南メンネルコールは、平成23年度この曲をコーラスにのせて歌ってきた。きれいな旋律に物悲しさがこもる『ロンドンデリーの歌』のルーツが知りたいと思った。そんな中、朝日新聞に掲載された記事(2011年7月22日 日曜版)が見つかった。その記事は(『追想と祈りを込めて アイルランド民謡「ダニーボーイ」』文・牧村健一郎)とあった。

『ロンドンデリーの歌』は、その旋律に別の歌詞がつけた『ダニーボーイ』が有名でもある。ここでは特集記事から抜粋して紹介する。詳細には元の記事を読んでほしい。

ヨーロッパ北部は6月が一番美しいという。厳しい冬が過ぎ、短い春のあと、まばゆい陽光が芝や牧草を輝かせる。アイルランド島は、「エメラルドの島」とも呼ばれる。

アイルランド島は、英国の西に位置する。ケルト系の旧教徒が多く、12世紀に英国に征服され、後に併合された。1949年、アイルランド共和国(首都ダブリン)が成立したが、新教徒の多い北部6州は北アイルランドとして英国に残った。

アイルランドは、ケルト独自の文化が伝わり、リバーダンスなどのアイリッシュダンスでも知られる。世界的に有名な歌「ダニー・ボーイ」(別名「ロンドンデリーの歌」)は、英国領北アイルランドに起源がある。

北アイルランドの中心都市ベルファスト郊外にあるアルスター民俗・交通博物館のスタッフのマーベル・ジェンキンスさんは、「私はあの曲の作曲者の子孫です」という。

この曲は、19世紀半ばの楽譜集「アイルランドの古曲集」に初めて登場する。北アイルランド・ロンドンデリー近くの町リマバディのジェーン・ロスという女性から譜が送られ、「曲名不詳」として載った。フィドル(バイオリン)奏者が奏でた旋律を採譜した、とされる。これ以前は伝説、伝承の世界だ。

ジェンキンスさんによると、15、16世紀ころ、オカハンという大地主が英国からの入植者に土地を奪われた。それを悲しんだ一族の者が作ったのがこの旋律という。「私はその一族の子孫です。この歌に悲しみがこもるのは、失われたものを追想する想いがあるからです。」

博物館の別のスタッフは、「あれは妖精が作ったんです。夢の中で妖精が歌うのを聞いて作ったという伝説もある」という。心にしみいる旋律らしい誕生話だ。

英国領北アイルランド・ベルファストからバスで2時間、ロンドンデリーは、中世の城壁が残り、教会の尖塔が青空を画す美しい町だ。

アイルランドは、移民の母国である。英国統治下の19世紀半ば、全土を襲った「ジャ

「ガイモ飢饉」で100万人が餓死し、100万人が海外移住した。譜になったこの旋律は、英国で「ロンドンデリーの歌」として知られるようになり、移民とともに米大陸にも渡った。

失われた思いを込める歌のゆえか、「ダニーボーイ」は、9.11だけでなく、追悼の式典で歌われる。東日本大震災から2カ月たった5月11日、被災地でも響いた。宮城県南三陸町の志津川中学校庭であった追悼の集まりでは、「静かに夜が明けてゆく 白い月が遠のく (中略) 今ここから生きてゆこう」という歌詞で歌われた。詩は、仙台市に住む詩人の大越桂さん(22)が震災以前に書いていたものだ。鎮魂にふさわしいと選ばれた。

がれきが残る町や海が一望できる坂で、参加者はろうそくを手に祈りをささげた。ソプラノ歌手がこの歌を歌うと、みな涙を抑えきれなかったという。

以上 朝日新聞 2011年7月22日 日曜版から抜粋

『追想と祈りを込めて アイルランド民謡「ダニーボーイ」』文・牧村健一郎

<http://www.ustream.tv:80/recorded/14623390>

(42分頃から歌声が聞けます)

朝の月 大越桂

静かに夜が明けてゆく
白い月が遠のく
深い悲しみに沈んだ闇に閉ざされた夜
心の鉛ひとかけら月になる涙なら
訪れる朝陽は光る
今ここから生きてゆこう

新しい時が流れて
白い月を動かす
悲しみの殻を溶かして少しだけ前へゆく
苦しみを小船に乗せて時の河に流せば
密やかないのちが灯る
今ここから生きてゆこう

